

奈良県観光戦略本部会議  
近鉄奈良駅・新大宮駅・JR奈良駅周辺エリア部会（第2回）  
議事概要

日 時：令和6年10月31日（木） 10：00～11：30

場 所：奈良公園バスターミナル 地階 控室1・2

出席者：江口英一委員、大久保泰佑委員、金田充史委員、川島昭彦委員、高橋一委員、中野聖子委員、平井宗助委員、藤丸正明委員 計8名 【五十音順】

○ 事務局より、「前回の部会概要について」、「地域の観光課題について」及び「具体的な施策について」を説明した後、意見交換が行われた。

➤ OTA との連携について

- ・ 消費額を増やす具体的な方法として、楽天トラベルの理論が非常に参考になる。「アクセス人員」、「転換率」、「1人単価」をあげたら、トータルの消費額はあがっていくが、単価を引き上げるのは難しいため、アクセス人員や転換率を引き上げる施策が有効。アクセス人員を引き上げるためには観光力創造課で実施予定のOTAサイトでのプロモーション事業が活用できると思われ、転換率を引き上げるためにはナイトミュージアムなどの体験型のナイトコンテンツが必要ではないか。
- ・ 観光力創造課の事業ではエクスペディアを活用し、B to Cで情報を届けるようにしたい。顧客にきちんと届くプロモーションを実施していきたい。
- ・ 県のなかにCMOなど、それを分析できる人はいるのか？
- ・ 県としてはそこも課題と認識している。県の人材で不足する部分を補うため、連携協定を結んでいるNTT西日本やソフトバンクからノウハウをいただきながら、分析を行っていく。
- ・ アクセス数が非常に多くても、転換率が非常に低いサイトもある。転換率を確保するためには、口コミを貯めていくことも大事。
- ・ 今はお客さんが口コミを書いてくれない時代。お客さんに口コミを書いて貰う工夫や仕掛けが必要。
- ・ 口コミに誘導するための、旅アトの設計はしているが、口コミの投稿に対して金銭の支払やクーポンの提供は、ガイドライン違反なところもある。転換率を引き上げるための設計には、それをハンドリングする人材も必要。
- ・ エクスペディアでの情報発信は11月末以降実施し、今後も継続していく予定。
- ・ 資金的にお金がかかるところを県が主導していただけてありがたい。県と市・観光協会などの行政事業が重複しないことが、効率的な行政運営に繋がる。県がこの事業をやろうとしていることを声高らかに宣言して欲しい。奈良公園周辺はプレイヤーが多く、プ

レイヤー間のコーディネーションが課題であるため、効率的な行政運営につながることはありがたい。

- ・ 県がやろうとしている、この取り組みはいいと思う。エクスペディアは特に日本に着目している。エクスペディアの広告として、浅草の飲み屋街の動画を日本のブランディングとして流したところ、欧米で多数再生された実績などがある。今回、奈良県がエクスペディアに専用サイトを作成するのであれば、彼らが独自でやっている欧米豪向けのキャンペーンを、「次は奈良にしろ」と言ってしまうでもいい。日本は人気があるから、エクスペディアも独自で広報をうつメリットがある。

#### ▶ナイトタイムエコノミーについて

- ・ 今あるコンテンツを活用しながら、夜間に観光客を受け入れる体制をつくっていくことも必要という意見があった。例えば、国立博物館の夜間開館の拡大やバーと連携した取組などもあるが、委員の皆さまにご意見いただきたい。
- ・ 観光協会では、万博の開催も見据え、飲食店の情報等をまとめたナイトマップを年度内に制作予定、スナックを含めるかなど悩んでいる。
- ・ 飲食店のマップはこれまでも作られたことがあるが、飲食店は入れ替わりが頻繁にあるため情報のアップデートが大変。年に1回の程度の更新であれば作成する意義は薄い。
- ・ スナックやカラオケボックスなどの情報もニーズが高く、反映させたほうが良い。
- ・ 飲食店の情報はカテゴライズしてあげることが大事だと思う。例えば、飲み屋といってもいろんな形がある。飲み屋を求めている方がどういうセグメントを求めているか、きっちり整理してあげた方が見やすい情報となる。奈良はハイレベルなバーテンダーも多い土壌にあり、そういったハイエンドな層を対象としたレベルの高いバーと、昭和感のあるスナックなどをまとめて紹介しないほうが、情報としては見やすい。
- ・ 特に外国人は、飲み屋の情報は貴重。飲み屋の情報が少ないことを日々感じている。
- ・ スナックなどの情報の開拓や整理をしてくれる業者もあるので、そういったところも活用できる。
- ・ 閉鎖的なコミュニティに入るのが苦手な方もいれば、お店側もご新規さんウェルカムなところとそうでないところがある。外国人向けだけでなく、日本人にもありがたい情報がもらえる情報だと思う。

#### ▶夜間のコンテンツについて

- ・ 夜のコンテンツづくりの話となるが、もちいど夜市をコロナ禍にやって非常に好評だった。地域のお店にとっても、お店を運営しながら夜市に出店することがしんどい面もある。夜市には外国人が喜んで参加してくれているが、継続できる体制であるかは大切な視点である。お店の経営の視点からいうと、夜よりも朝のほうが出店者にとっては負

担感が少ないと思う。

- ・ 旅館組合の主催で冬の鹿寄せをやっているが、鹿寄せの時間帯に店舗が開いておらず、茶がゆを各旅館からのサービスで提供していたぐらい。旅館組合の投資を生かすためには、既存の店舗の協力が必要だが、現状では消費につながっていない。
- ・ 朝に店舗をあけてもペイできない、ということもある。
- ・ 最初は地元の人への参加が非常に多かったが、最近の客層はインバウンドにシフトしている。開催時期を考えるうえでは、地域の行事なども考慮したほうが良い。

#### ▶既存のコンテンツの掘り起こし・ブラッシュアップについて

- ・ クラシック音楽のファン層に関して、奈良は他の地域と比較して、明らかに厚みがある。文化会館が改装中のため、現在は1000人以上入れる施設が奈良にはない。しかし、クラシックのファン層はお金を落としてくれる人たちで、比較的ゆっくりしたいというニーズがあるため、文化会館の改装が完了したときには、演奏家がまちで演奏するような仕掛けなど、音楽をからめたパッケージをつくっていくのも面白い。奈良公園の周辺は、まちがコンパクトなこともプラスの要因。
- ・ 奈良公園周辺ではムジークフェストが開催されてきたことによる下地があるので、上手に連携していければ。
- ・ ムジークフェストはブラッシュアップしていかないと。
- ・ ナイトミュージアムについても、連携のなかでほんまもんを見せていくことが大事だと思う。素地のある良いものを使うことで、文化との親和性が高い欧米豪の方を満足させられる仕掛けをつくっていきたい。
- ・ 文化振興課の事業と観光局の事業を連携させてほしい。文化側の視点だけで事業を実施した結果が現状だと思う。
- ・ ナイトミュージアムの件も含め、横串を刺した事業展開を予定している。

#### ▶奈良公園バスターミナルの活用について

- ・ 委員の皆さまにヒアリングさせていただいた際、バスターミナルをゲートウェイとして一層活用できないか、とご意見をいただいた。「はじまりの地」というキーワードで、お茶やお酒をうまく組み合わせた空間整備も検討しているところ。
- ・ 「東の山に太陽が昇って蘇生の1日が始まる。東の山に月が昇って幽玄の世界が始まる。」という世界観は奈良オリジナルで、そこから茶道も能楽も始まっている。自然との共生が見られるのが奈良である。茶道は太陽と月をすごく大事にしており、実際の太陽を見ながら、月が見ながら、バスターミナルでお茶が楽しめるというのは非常に贅沢。東側の景色が抜群にいいバスターミナルは非常に利用価値が高い。茶道関係者には富裕層が多く、全国津々浦々にいることから宿泊にもつながるので、もっと連携できれば面白くなる。奈良の工芸がわび茶につながっているというストーリーがあり、お茶や能

楽には奈良でしかできないプロモーションがあるが、カジュアルにお茶を楽しめるところが奈良にない。ハードルを下げて楽しめるところと、本物を体感させるという2つにわけて、観光客が体験する入口を整備することが大事で、欧米の方にも喜ばれると思う。

- ・ 日本人でも茶道に対して、ハードルを感じていると思う。お茶をカジュアルに体験でき、奈良と茶道の歴史への理解が深まれば、奈良がより良く見えてくると思う。
- ・ 茶道や能楽が奈良発祥の地で、全国6位の茶道人口であるにもかかわらず、ストーリーをきちんと説明している施設がないのは、奈良の弱点。
- ・ バスターミナルをうまく活用し、お茶や酒のストーリーなども伝えて行けたらと思う。

#### ▶土地利用について

- ・ 奈良はいろんな規制が多く、出店がしづらいという意見もある。都市計画法ができた昭和44年と世の中は変化しているにもかかわらず、規制緩和はなかなかできないのが現状。国に規制緩和を求めていくためにも、困っている事例があれば教えていただきたい。土地利用規制を見直していかないと、奈良の未来は厳しい。
- ・ 土地利用を見直す前に、猿沢池のそばの奈良公園の木を切って欲しい。

#### ▶地域のまちづくりについて

- ・ JR奈良駅からの動線は統制がとれていない雑多な印象を受ける。
- ・ 各店舗が個別に設計しているから、現状ようになるのは必然。ファザードの統一など計画的に出来れば良いが、強制するのはなかなか厳しい。昭和20～30年頃は、建築技術が木造で限られていたため統一されていたが、今はなかなか難しい。
- ・ 奈良は限られた空間を使う技術が高く素晴らしい。ビジネスとしては非常に使いにくいと思うが、そういった技術はうまく残してもらえたら。

#### ▶受入環境の整備について

- ・ インバウンドは宿泊施設の外で食事をとる傾向が強い。バーの情報なども、旅ナカでうまく流してあげる工夫が必要かと思う。
- ・ 宿泊を促すためのアクティビティが議論になっているが、宿泊自体が目的になる宿泊施設をつくるという視点もある。大久保さんが経営されるホテルがまさにそう。ホテル自体がコンテンツを持ち、そのコンテンツを目指してお客さんが宿泊するという形で、宿泊施設の役割や意味合いについて再定義していくことで、宿泊施設の可能性が広がるのではないかと。
- ・ 宿泊施設は集客人員のことも考えていかないと。宿泊施設がそういった取組を個別にするのは自由だが、コンテンツ型のホテルだけでは、キャパシティの問題がある。
- ・ ひとつのヒントとして考えてもらえたら。そういう宿泊施設が増えるほど、SNSなどで

拡散され、奈良での宿泊体験が魅力的な話として世に出ることとなるので、一泊一組しか泊まれなくても、奈良に宿泊する流れが徐々に出てくればいい。

- ・ 宿泊施設の供給量の制限要因(ボトルネック)は人的資源。5～10年スパンで見ると、箱物ではなく、オペレーションする人を確保していくことが重要だと考えている。優秀な人を確保しつづけることが大事なので、人に着目した支援があってもいいと思う。開発サイドの人は運営サイドのことをあまり考えない傾向もある。従業員の給料や労働時間もきっちり考えていく必要がある。これは、シティホテル、ビジネスホテル、コンテンツ型ホテルの共通の課題である。
- ・ 常に大阪の時給を見ながら時給の設定をしているが、中小零細では難しい部分もある。

#### ▶奈良の食について

- ・ 「奈良に食無し」という話もあるが、お茶の世界では、日本の食事は奈良から始まっている。奈良の食文化について、もっと宿泊施設に共有していくことも必要でないか。奈良出身の料理人が多数全国で活躍している。食文化の文化的価値も説明できることがたくさんあり、もったいない現状にある。

#### ▶コンテンツ情報の発信について

- ・ ビジターズビューローが作成しているパンフレットに体験型コンテンツがたくさん掲載されているにもかかわらず認知度が極めて低い。せっかくコンテンツがあるのに、パンフレットが観光案内所などになく、ビューローの事務所に置いてあるだけだと意味がない。また、パンフレットに掲載されているコンテンツについて、翌日の体験を宿泊施設で予約が受けられるようにできれば理想。旅マエ・旅ナカで届ける工夫が必要だし、まずはビューローが宿泊施設に向けて説明するべき。
- ・ 観光消費額をあげるマーケティングの「4つのP」で県がハンドリングできるものは、PromotionとPlace。旅ナカビジネスはリードタイムが極めて短いことが問題で、コンバージョンにつながらない。タイムが短いことが問題。マジカルトリップは2～3時間前まで予約を受け付けられる仕組みがされていることが強み。
- ・ マジカルトリップは旅行者目線で実施していて、非常に完成度が高い。
- ・ 今日の部会での意見について、県単位でマーケティングの視点から分析できると、アドバイスの内容が具体的な施策に落とし込めると思う。

#### ▶インバウンド向けの情報発信について

- ・ 奈良公園周辺では、外国人向けのマップやツールは充実しているのか。
- ・ 非常に多くの種類を用意しており、英語版はすぐになくなる。
- ・ 欧米豪がグループで来たときに、ムスリムやベジタリアンがいると、食事はその一人にあわせる。東京では、ムスリムやベジタリアンなどに対応した冊子を作成している。媒

体はパンフレットでなく専用サイトでも良く、そういう配慮・姿勢があるということアピールすることが大事。エキスペディアでプロモーションを実施していくなかでも、今後そういった話が出てくる可能性も高いのでは。

▶奈良公園周辺の観光資産について

- ・ 観光資源には社寺だけではなく、自然遺産もたくさんある。自然遺産の整備を誰が主導してやるのか、ということについて、私有地が含まれている場合や地域をまたがる場合など、なかなか決まらない。
- ・ 地域の課題に対して、行政ができること、地域ができることを、県の観光地域づくり事業で仕分けしているところ。例えば、天理の山辺の道では、地域の課題をひもとくところからやっている。二次交通の話も、ソフトバンクとの協定などを活用しながら、検討を進めている。
- ・ 年に数回、地元自治会のボランティアで、倒木の整理など手入れをしているが限界が来ている。
- ・ 整備には時間がかかるため、安全なルートを誘導できるガイドを養成するなど、すぐにできることとそうでないことを整理しながら、色々なツールを考えていきたい。

○今後の進め方について

議論いただいた内容を踏まえ、県で実施予定の事業の内容を膨らませていくとともに、今年度実施する実証実験についても、トライ & エラーで進めていくこととした。

以上